

2025年3月期
第2四半期 (中間期) 決算説明会

2024年11月20日

株式会社ジャムコ



JAMCO Vision 2030

技術と品質を翼に、快適で持続可能な未来へ

航空業界を基軸に培ってきた技術と品質を、先端技術とイノベーションにより進化させながら更なる事業領域の拡大を目指し、航空宇宙産業を通じた価値創造企業グループとして、快適で持続可能な社会へ貢献し続ける。

*Always Fly Together with transforming our business by
engineering evolution for a sustainable world*

- この資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来に関する見通しであり、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度に関するさまざまなリスクや不確実な要素を含んでおります。実際の業績はこれらの見通しとは異なる結果があり得ることをご承知おきください。
- この資料における数値について、記載金額は、表示桁未満を切捨てしており、増減率(%)は、表示桁未満を四捨五入して作成、表示しております。
- 本資料を(株)ジャムコの許可無く転載・複写することを禁じます。又、本資料を使用することにより生じたいかなる損害について(株)ジャムコは一切責任を負いません。



Contents

SECTION 1 2025年3月期 第2四半期(中間期)決算の状況

- 04 | エグゼクティブサマリー
- 05 | グループ連結P/L
- 06 | 連結経常利益の前年同期比差異要因
- 07 | セグメント別 売上高・経常利益-①(前年同期比)
- 08 | セグメント別 売上高・経常利益-②(前年同期比)
- 09 | グループ連結B/S
- 10 | グループ連結C/F
- 11 | グループ各社の状況 (2025年3月期/上期)

SECTION 2 2024年度の市場環境と進捗状況

- 13 | 2024年度の市場環境と当社の対応
- 14 | 2024年度 進捗状況
- 15 | 事業別進捗状況(航空機内装品セグメント)
- 16 | 事業別進捗状況(航空機シートセグメント)
- 17 | 事業別進捗状況(航空機器製造セグメント)
- 18 | 事業別進捗状況(航空機整備セグメント)

JAMCO CORPORATION

2025年3月期 第2四半期(中間期)決算の状況

SECTION

1

- 03 | エグゼクティブサマリー
- 04 | グループ連結P/L
- 05 | 連結経常利益の前年同期比差異要因
- 06 | セグメント別 売上高・経常利益 ①(前年同期比)
- 07 | セグメント別 売上高・経常利益 ②(前年同期比)
- 08 | グループ連結B/S
- 09 | グループ連結C/F
- 10 | グループ各社の状況 (2025年3月期/上期)

1

- 2024年上期実績は、売上高364億円(前期比+92億円)、営業利益20億円(前期比+12億円)、経常利益11億円(前期比+6億円)で増収増益。中間純利益は9億円(前期比△0.2億円)。

2

- 航空機シート事業の新規開発を伴う受注を一時的に凍結、前期比で25億円の収益改善。

3

- 営業キャッシュフローは棚卸資産の増加があったものの、キャッシュフロー改善活動推進による売上債権の回収促進及び前受金の増加、税金等調整前中間純利益等により+54億円、フリーキャッシュフローは+49億円を計上。

4

- 上期の売上高は対計画で低調に推移したものの、損益面は計画通りの推移。
- 現時点において、ボーイングにおけるストライキの影響など不透明な状況が続いており、新造機の生産スケジュール遅れが懸念。一方、エアライン向け既存機の改修需要が旺盛なことやスペアパーツ販売の需要が引き続き好調を維持していること、更には下期に採算性の良い製品の出荷を予定していることから、連結会計年度の業績予想は据え置き。
- 現在、ボーイングのストライキの影響を精査しており、今後業績予想の修正が必要であると判断した場合には、速やかに開示いたします。
- 連結業績予想の前提となる為替レートは、140円/米ドルから変更なし。

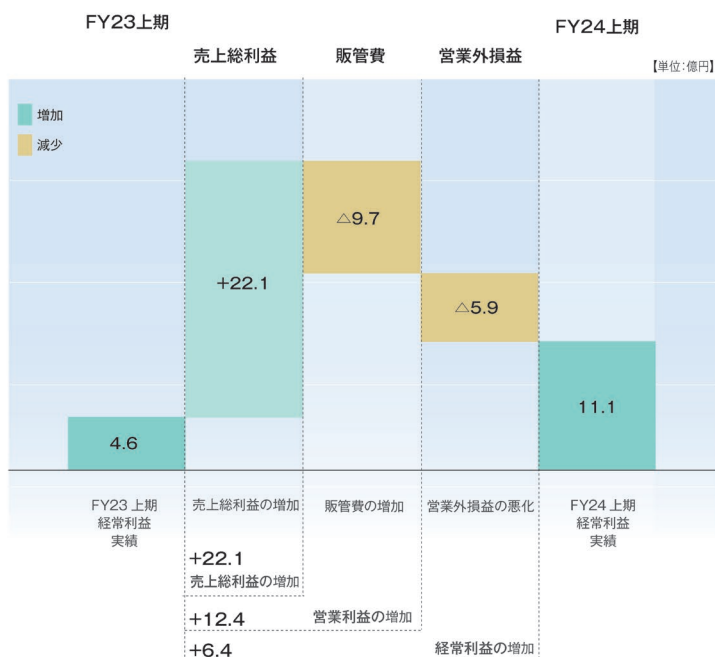
【単位:百万円】

	FY23上期 (実績)	FY24上期 (実績)	前年同期比 (増減)
売上高	27,243	36,486	9,243
売上総利益	5,247	7,465	2,217
販管費	4,467	5,441	974
営業利益	780	2,023	1,243
営業外損益	△ 317	△ 911	△ 594
経常利益	463	1,112	648
特別損益	△ 12	14	26
税金等調整前中間純利益	451	1,126	675
親会社株主に帰属する 中間純利益	960	931	△ 28
1株当たり中間純利益 (円)	35.80	34.71	—
売上為替レート (円/USドル)	138.69	152.40	—

グループ連結 P/L

- 売上高は、前期 272 億円に対し、当期実績は 364 億円
- 経常利益は、前期 4 億 6 千万円に対し、当期実績は 11 億 1 千万円
- 親会社株主に帰属する中間純利益は、前期 9 億 6 千万円に対し、当期実績は 9 億 3 千万円
- 2024 年度 上期は、前期に対して増収増益の結果となった

■ 前期比 +6.4億円



Point

■ 売上総利益(+22.1億円)

- 売上高の増加に加え、シートセグメントにおいて、新規開発を伴う受注の一時凍結により開発コスト抑制や工事損失引当金繰入額の減少などから改善

■ 販管費(△9.7億円)

- 保証工事費の増加 △3.7億円
- 人件費の増加 △2.7億円
- 販売手数料の増加 △2.0億円
- 社外委託費の増加 △1.5億円
- その他 +0.2億円

■ 営業外損益(△5.9億円)

- 為替差益の減少 △2.6億円
- 支払利息等の増加 △1.4億円
- 売却債権譲渡損の増加 △1.0億円
- その他 △0.9億円

連結経常利益の前期比差異要因

- 売上総利益は、売上高の増加に加えてシートセグメントにおける新規開発を伴う受注の一時凍結により開発コスト抑制や、工事損失引当金繰入額の減少などにより 22 億 1 千万円増加
- 販管費は、保証工事費、人件費、販売手数料及び社外委託費が増加したことから 9 億 7 千万円の増加
- 営業外損益は、為替差益の減少やドル建て支払利息が円安により増加したことから損方向に 5 億 9 千万円
- その結果、前期実績の経常利益 4 億 6 千万円から 6 億 4 千万円の増加となり、当期実績は経常利益 11 億 1 千万円

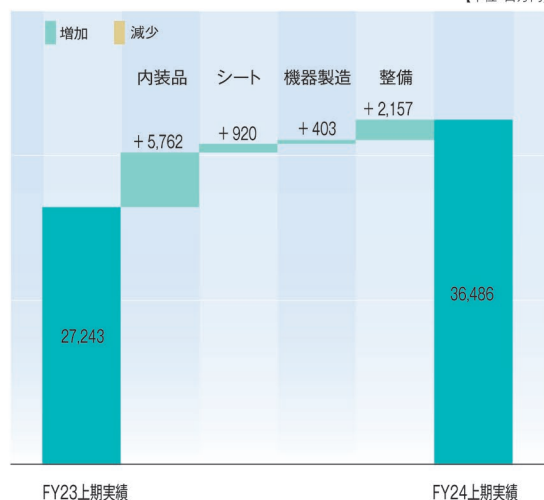
【単位:百万円】

	売上高			経常利益		
	FY23上期 (実績)	FY24上期 (実績)	前年同期比 (増減)	FY23上期 (実績)	FY24上期 (実績)	前年同期比 (増減)
航空機内装品	17,369	23,131	5,762	3,202	1,171	△ 2,030
航空機シート	3,950	4,871	920	△ 2,690	△ 137	2,553
航空機器製造	2,205	2,608	403	△ 151	△ 84	67
航空機整備	3,715	5,873	2,157	102	160	57
その他	1	1	0	0	1	1
合 計	27,243	36,486	9,243	463	1,112	648

(注)「その他」はオレンジジャムコの事業を含んでおります。

売上高

【単位:百万円】



FY23上期実績

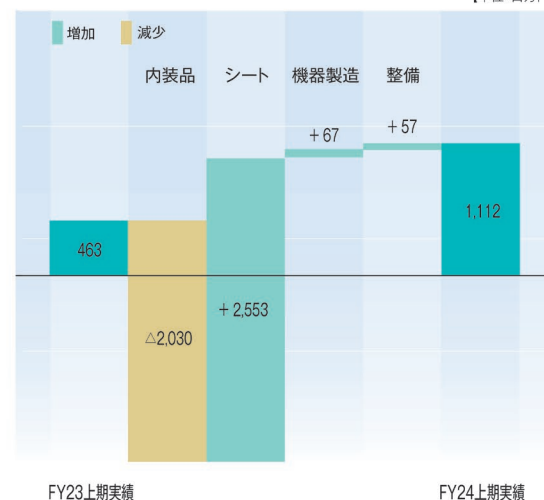
FY24上期実績

Point

- 内装品は、運航機数の増加によりエアライン向けスペアパーツ販売が増加したことなどから増加
- シートは、前期から繰り延べられたプログラムの出荷があったことなどから増加
- 機器製造は、民間航空機向け炭素繊維構造部材の出荷が増加したことなどから増加
- 整備は、部品整備において前期から繰り延べられたプログラムの出荷があったことなどから増加

経常利益

【単位:百万円】



FY23上期実績

FY24上期実績

Point

- 内装品は、期の後半に為替レートが円高に転じたことにより工事損失引当金が増加したことや前年同中間期に計上した顧客仕様変更に伴う追加売上の反動に加え、人件費の増加などによる販売費及び一般管理費の増加、更には営業外損益において為替差益の減少や支払利息の増加などにより減少
- シートは、赤字プログラム減少による工事損失引当金繰入額の減少や新規開発を伴う受注の一時凍結による開発コストの抑制などから改善
- 機器製造は、採算性向上活動への取組みなどから改善
- 整備は、売上高の増加などにより増加

セグメント別 売上高・経常利益（前年同期比）

売上高

- 内装品セグメントは、運航機数の増加によりエアライン向けスペアパーツ販売が増加したことなどから売上高は前期比で 57 億 6 千万円増加
- シートセグメントは、大口プログラムの出荷があったことなどから、9 億 2 千万円の増加
- 機器製造セグメントは、民間航空機向け炭素繊維構造部材の出荷が増加したことにより 4 億円増加
- 整備セグメントは、部品整備において前期から繰り延べられたプログラムの出荷があったことにより、21 億5千万円増加
- 各セグメントにおいて前期を上回る売上高となった

経常利益

- 内装品セグメントは、期の後半に為替レートが円高に転じたことにより工事損失引当金が増加したことや、前期に計上した顧客仕様変更に伴う追加売上の反動に加え、人件費の増加などによる販売費及び一般管理費の増加、更には営業外損益において為替差益の減少及び支払利息の増加などにより 20 億円減少
- シートセグメントは、赤字プログラム減少による工事損失引当金繰入額の減少や新規開発を伴う受注の一時凍結による開発コストの抑制などから 25 億円改善
- シートセグメントは、「選択と集中」による効果が着実に実現している
- 機器製造セグメントは、採算性向上活動への取組みなどから 6 千万円改善
- 整備セグメントは、売上高の増加などにより 5 千万円の増加

【単位:百万円】

科 目	FY23 末 2024年3月31日現在	FY24 上末 2024年9月30日現在	増減	科 目	FY23 末 2024年3月31日現在	FY24 上末 2024年9月30日現在	増減
〈資産の部〉				〈負債の部〉			
流動資産				流動負債			
現金及び預金	6,766	15,145	8,378	支払手形及び買掛金	6,951	6,754	△ 197
受取手形、売掛金及び契約資産	20,317	17,442	△ 2,874	電子記録債務	5,036	5,645	608
棚卸資産	51,865	54,613	2,747	短期借入金	52,697	52,796	99
その他流動資産	3,934	3,275	△ 659	1年内返済予定の長期借入金	660	1,660	1,000
流動資産合計	82,884	90,477	7,592	前受金	7,735	9,515	1,780
固定資産				工事損失引当金	5,209	5,620	410
有形固定資産	11,437	11,418	△ 18	その他流動負債	5,833	7,750	1,916
無形固定資産	2,106	2,550	443	流動負債合計	84,123	89,741	5,618
投資その他の資産	11,788	11,880	92	固定負債			
固定資産合計	25,331	25,848	516	長期借入金	590	1,260	670
資産合計	108,216	116,325	8,108	その他固定負債	8,431	9,502	1,070
				固定負債合計	9,021	10,762	1,740
				負債合計	93,144	100,504	7,359
				〈純資産の部〉			
				純資産合計	15,071	15,821	749
				負債及び純資産合計	108,216	116,325	8,108

Point

- 受取手形及び売掛金は、売掛金の回収により減少
- 棚卸資産は、納入スケジュールスライドに伴い増加

■ 自己資本比率 13.9% → 13.6%

グループ連結 B/S

- 資産合計は、「受取手形、売掛金及び契約資産」は売掛金の回収により28億円減少したが、「現金及び預金」が大口の前倒し入金などにより83億円増加、「棚卸資産」は納入スケジュールスライドに伴い27億円増加したことにより、資産合計では81億円増加
- 負債合計は、「前受金」の増加などにより、73億円増加
- 純資産合計は、利益剰余金の増加などにより7億円増加

【単位:百万円】

	FY23上期	FY24上期
営業活動によるキャッシュ・フロー	774	5,408
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 745	△ 468
フリー・キャッシュ・フロー	29	4,939
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 816	3,232
現金及び現金同等物の増減	△ 194	8,378
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,764	15,145

Point

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、キャッシュフロー改善活動推進による売上債権の回収に加え、前受金の入金、利益の積上げによりキャッシュインフロー

グループ連結 C/F

- 営業活動によるキャッシュフローは、棚卸資産の増加があったものの、キャッシュフロー改善活動推進による売上債権の回収に加え、前受金の入金、利益の積上げにより54億円のキャッシュインフロー
- 投資活動によるキャッシュフローは、4億6千万円のキャッシュアウト
- これらの結果、2024年上期のフリーキャッシュフローは、49億3千万円のキャッシュインフロー

【単位:百万円】

	当 社	ジャムコ エアクラフト インテリアズ	ジャムコ アメリカ	ジャムコ フィリピン	ジャムコ エアロ マニュファク チャリング	徳島 ジャムコ	ジャムコ エアロテック	オレンジ ジャムコ
売 上 高	33,562	1,791	11,761	489	632	421	257	63
営 業 利 益	1,860	△ 339	381	71	67	13	19	1
経 常 利 益	1,296	△ 338	124	63	67	14	20	1
当期純利益	1,184	△ 351	128	52	43	8	13	1

グループ各社の状況

- ジャムコ エアクラフト インテリアズは、ボーイング社における航空機生産計画変更による生産量低下に伴い赤字決算
- シート事業の製造拠点であるジャムコアメリカは、シート事業の新規開発を伴う受注の一時凍結により開発コストの抑制などから黒字決算

2024年度の市場環境と進捗状況

SECTION

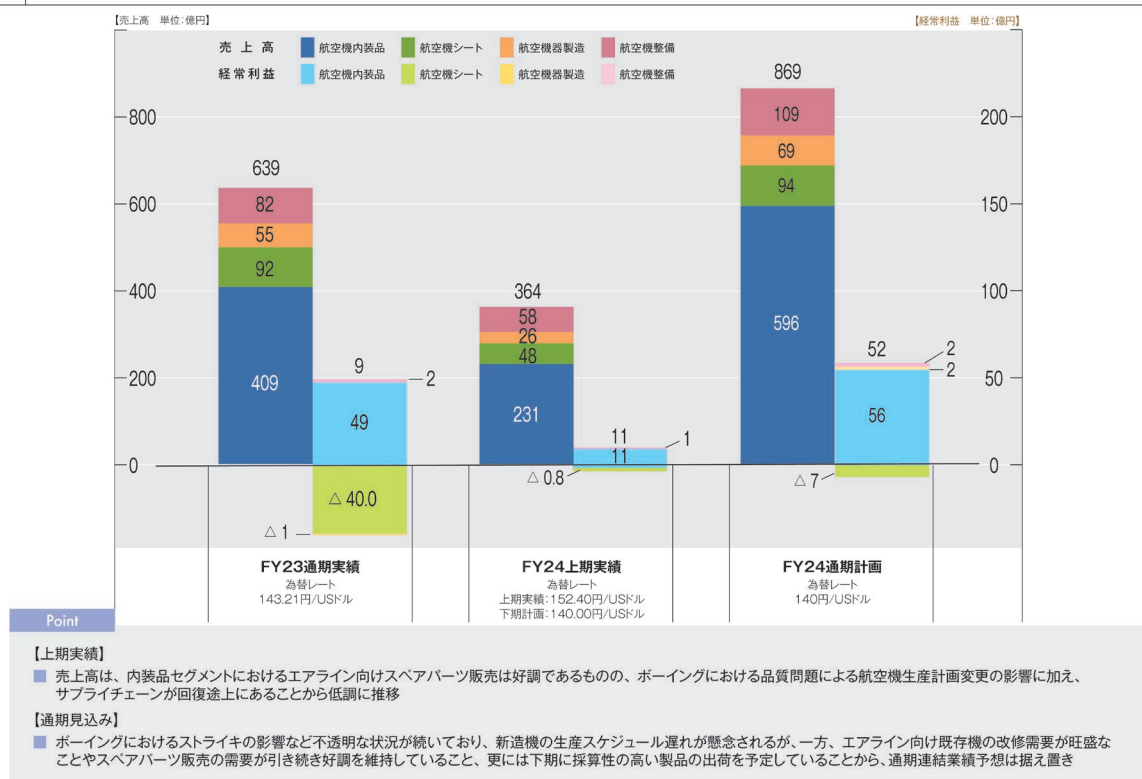
2

- 13 | 2024年度の市場環境と当社の対応
- 14 | 2024年度 進捗状況
- 15 | 事業別進捗状況(航空機内装品セグメント)
- 16 | 事業別進捗状況(航空機シートセグメント)
- 17 | 事業別進捗状況(航空機器製造セグメント)
- 18 | 事業別進捗状況(航空機整備セグメント)

- 6月にIATA(国際航空輸送協会)が発表した航空旅客需要予測によるとFY23はFY19の93%の実績、FY24は同100%とコロナ禍前の水準まで回復する見込み。その後も引き続き市場は成長傾向が続くものと見込んでいる。
- FY24上期のスペアパーツ売上実績は102億円(前年度通期153億円)。10月1日付でアフターマーケットサービス部を新設し販売強化を更に促進させる。
- ボーイングにおける品質問題による航空機生産計画変更の影響に加え、サプライチェーンが回復途上にあることから売上高が低調に推移。
- 10月1日付で生産技術部を新設し生産技術を強化、不具合対応や改善業務も集約することで原価削減を追求する。
- 為替レートについては期初の150円台から9月末に向け142円台まで急速な円高となるが、再び足元では150円超で推移しており、世界経済は不透明感継続の見通し。

2024 年度の市場環境と当社の対応

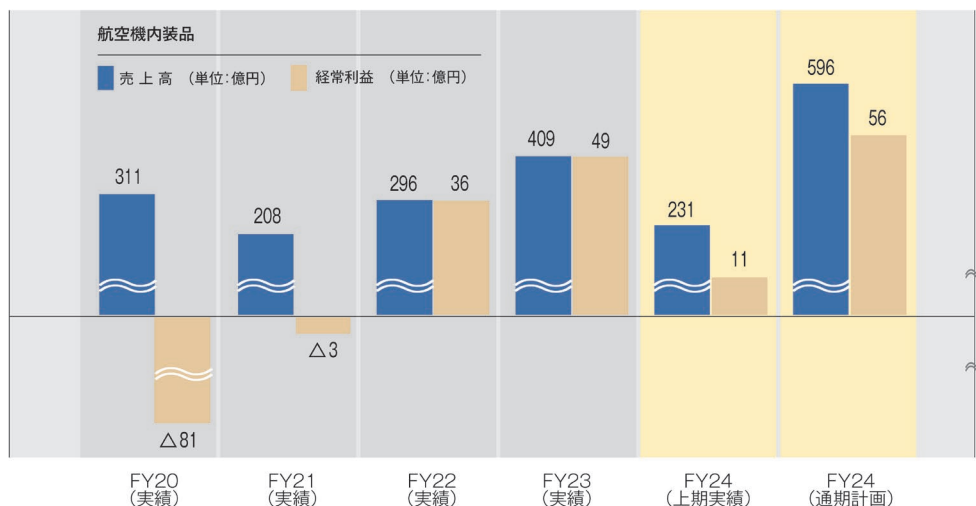
- 6月にIATA(：国際航空輸送協会)が発表した航空旅客需要予測によると2023年度はコロナ禍前の2019年度の93%、2024年度は同100%とコロナ禍前に戻る見込み
- 今後も引き続き成長傾向が続くものと見込んでいる
- 新造機の生産が低迷する中で旺盛なスペア需要に支えられる形で、2024年度上期のスペアパーツ販売は102億円と、前年度通期153億円と比較してもハイペースで推移
- 10月1日付でアフターマーケットサービス部を新設し販売強化を更に促進
- 当社主力製品である内装品は、ボーイング社における品質問題による航空機生産計画変更の影響に加え、サプライチェーンが回復途上にあることから、売上高が低調に推移
- 10月1日付で生産技術部を新設し生産技術を強化、不具合対応や改善業務も集約することで原価削減を追求
- 為替レートは期初の150円台から9月末に向け142円台まで急速な円高となるが、再び足元では150円超で推移、世界経済は不透明感継続の見通しで引き続き注視が必要



2024 年度 進捗状況

- 通期見通しは、ボーイング社におけるストライキの影響など不透明な状況が続いており新造機の生産スケジュール遅れが懸念されるが、エアライン向け既存機の改修需要が旺盛なことやスペアパーツ販売の需要が引き続き好調を維持していること、更には下期に採算性の高い製品の出荷を予定していることから、通期連結業績予想は据え置き

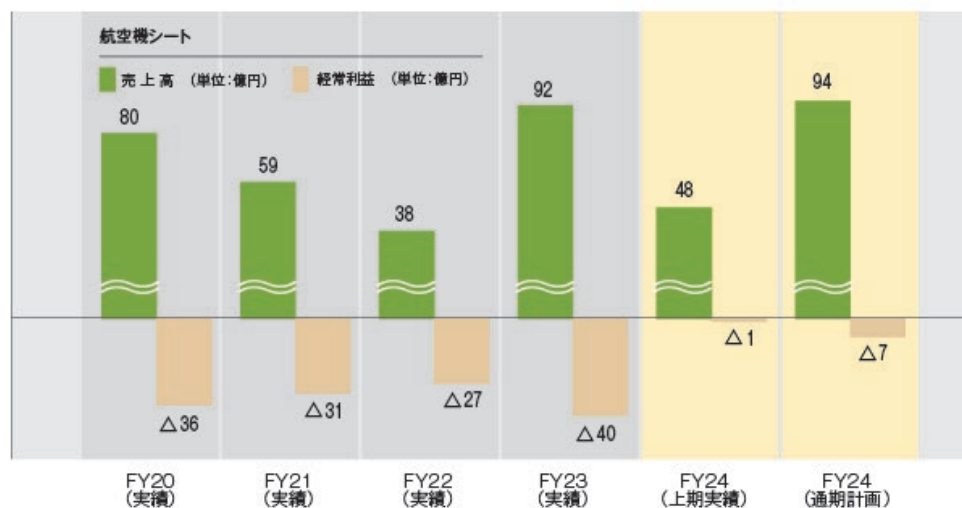
- 上期はボーイングにおける航空機生産計画変更の影響や、サプライチェーンが回復途上にあることから内装品の売上低調
- 運航機数増加に伴いスペアパーツ販売は好調
- アフターマーケットサービス部を中心としたスペアパーツ販売を推進、採算性の高い案件を確実に出荷することで利益の積上げを狙う



事業別進捗状況(航空機内装品セグメント)

- 売上高は、ボーイング社における航空機生産計画変更の影響や、サプライチェーンが回復途上にあることから低調であるが、運航機数増加に伴うスペアパーツ販売の好調もあり通期計画 596 億円に対して上期実績は 231 億円
- 経常利益は、生産計画変更による黒字案件の下期への後ろ倒し等により、通期計画 56 億円に対して上期実績 11 億 7 千万円
- 10 月 1 日付で新設したアフターマーケットサービス部を中心に事業部一丸となり、高利益率のスペアパーツ販売を一段と強力に推進するとともに、上期からスライドした採算性の高い案件を確実に出荷することで利益の積上げを狙う

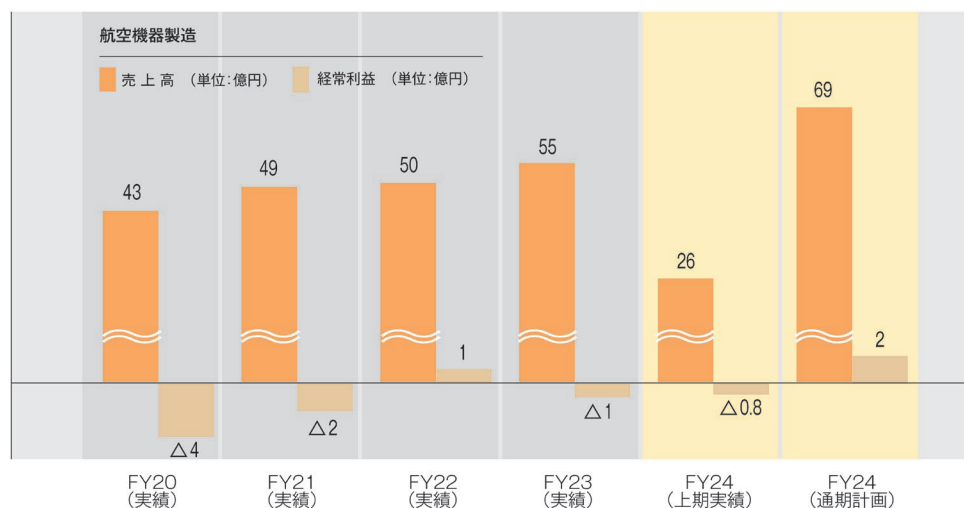
- 上期は大口プログラムの出荷があったものの、一部プログラムの下期へのスライドがあり売上高は未達
- 損益は販管費など費用の減少に加えて、上期末に向け円高に推移したことによる影響などから、損失改善
- 堅実な出荷、およびコスト抑制により損失縮小を継続



事業別進捗状況(航空機シートセグメント)

- 売上高は、大口プログラムの出荷があったものの、一部プログラムの翌期へのスライドがあり、計画に対しては未達。通期計画 94 億円に対して、上期実績は 48 億円
- 損益は、販管費など費用の減少に加えて、上期末に向け円高に推移したことによる影響などから、通期計画 7 億円に対して上期実績は 1 億 3 千万円
- 上期の損失改善を一過性として終わらせることのないよう、堅実な出荷継続はもちろん、引き続き計画外のコスト発生を抑制することにより、損失縮小を継続する

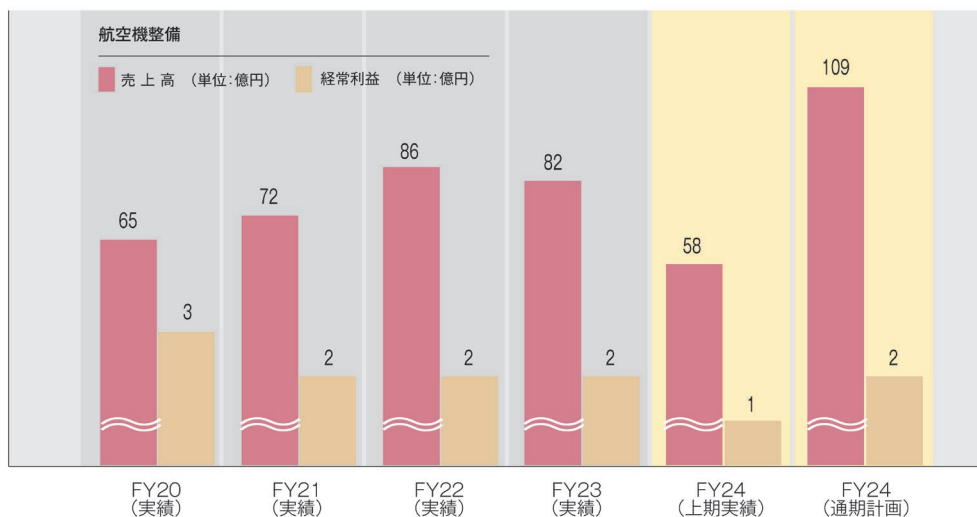
- 上期は民間航空機向け炭素繊維構造部材出荷増加
- リソース再配分により当社の強みを生かした高利益率事業への成長



事業別進捗状況(航空機器製造セグメント)

- 売上高は、民間航空機向け炭素繊維構造部材の出荷増加があったが、民間航空機エンジン部品および航空宇宙装備品の部品入荷遅れに伴う出荷減少等により、通期計画 69 億円に対して上期実績は 26 億円
- 通期計画では 2 億円の経常利益を見込んでいるが、先述した出荷減少に加え部材費や人件費等の原価高の影響を受け、上期実績 8 千万円の経常損失
- 限られたリソースの再配分を実行、当社の強みである技術を生かした特殊工程を含む製品を主とした「選択と集中」により高利益率事業への成長を実現する

- 上期は前期から繰り延べられたプログラムの出荷・部品販売増等により増収増益
- 機体整備・部品販売にて着実な利益の積み増しに努める



事業別進捗状況 (航空機整備セグメント)

- 売上高は、前期から繰り延べられたプログラムの出荷および部品販売増加により、通期計画 109 億円に対して上期実績は 58 億円
- 経常利益は、利益率の高い部品販売が増加したことで通期計画 2 億円に対して上期実績 1 億 6 千万円
- 引き続き機体整備・部品販売にて着実に利益を積み増していく